

第8期鳥羽少年探偵団

世界の真珠王・御木本幸吉を調査



写真提供：ミキモト真珠島

T O B A
鳥羽少年探偵団

きょうみ しんしん とば いろ
興味津々鳥羽の色。

人材育成講座「地球塾」の特別講座としてスタートした「鳥羽少年探偵団」。調査や体験学習を通して、鳥羽に関係があり、偉大な業績を残した人物について学びます。今年度は、第8期を迎え、市内の5中学校から9人の団員が集まりました。今回は、苦境と波乱を乗り越え、世界で初めて真珠の養殖に成功し、世界に真珠を広めた御木本幸吉を調査します。

教育委員会生涯学習課

☎01268

御木本幸吉とは

御木本幸吉は、1858年（安政5年）、志摩国鳥羽町大里でうどんの製造販売「阿波幸」を営む父音吉、母もとの長男として生まれました。幼名は吉松といい、13歳で家業の傍ら青物行商を始め、17歳のとき、イギリスの測量船シルバー号が寄港した際、足芸（足の裏でおけの蓋を回す）を披露して卵や青物売り込んだという機知に富んだ話が残っています。

1878年、20歳で家督を相続し、御木本幸吉と改名しました。同年3月に東京、横浜への視察旅行の際に、高価な値で取引されている天然真珠を見たことから、真珠の取引に関心を高めました。その当時、海産物商を営んでいた幸吉は、志摩国海産物改良組合の結成などに参加して地元産業振興に尽力し、三重県勸業諮問委員などを務め、地元の名士になっていきました。そして、1881年、23歳で元鳥羽藩士久米森造の長女うめと結婚しました。1888年、30歳のときに、大日本水産会の柳橋悦を訪ね、指導を仰ぎ、アコヤ貝の養殖を始めました。その2年

後、1890年に東京帝国大学の箕作佳吉を訪ね、真珠の成り立ちと養殖法の説明を受け、真珠の養殖が可能だという確信を持ちました。

それから3年、試行錯誤の連続で苦しい日々が続きましたが、1893年7月11日、養殖を行っていた相島（現ミキモト真珠島）で、5粒の半円真珠が見つかりました。世界初となる養殖真珠の誕生でした。幸吉35歳のときでした。そして、1896年には、箕作佳吉の協力で半円真珠の特許権を得ることができました。しかし、同年4月21日、一番の理解者であり、陰ながらに幸吉を支えてきた最愛の妻うめが32歳の若さで他界します。

その後も、苦境にめげず、半円真珠の発明から12年後の1905年、47歳のときに、ついに真円真珠を完成させ、特許権も取得しました。

幸吉は、真珠養殖の研究を進める一方で、東京銀座に世界で初めての真珠専門店である御木本真珠店を開設したり、パリ博覧会をはじめ、各博覧会への出品や、ロンドンに卸支店を開設するなど、積極的に世界へ真珠を広める活動を行いました。

また、真珠の養殖事業のみならず、尊敬する二宮尊徳の影響を受けて、伊勢神宮の内宮と外宮を最短距離で結ぶ御木本道路や、英虞湾と太平洋をつなぐ志摩市前島半島の深谷水道、南伊勢町の能見坂トンネルの整備など、志摩一円の開発にも尽力しました。明治天皇に拝謁した際に、「世界中の女性の首を真珠でしめてご覧に入れます」と言って周囲を慌てさせた幸吉ですが、見事にその言葉を實現させ、「世界の真珠王」と呼ばれるまでになり、1954年9月21日、96歳で亡くなりました。



鳥羽二丁目大里にある幸吉生誕の地



明智小五郎役
大木信幸さん



嶋田恵果さん
(鳥羽東中2年)



寺田扶希さん
(鳥羽東中2年)



竹内弥生さん
(加茂中2年)



小久保葵さん
(加茂中2年)



西川慶佑くん
(答志中2年)



中村太信くん
(答志中2年)



松井成穂さん
(長岡中2年)



亀川実可子さん
(長岡中2年)



細木仁美さん
(鏡浦中2年)



市内を調査する団員たち



学習会の講師、真珠博物館の松月清郎館長



結団式で任命書を受け取る団員



学習会で、意見を交換しました



学習会の講師、南山大学の目崎茂和教授



みんなの前で、これからの抱負を語る団員たち

結団式&第1回学習会

第8期鳥羽少年探偵団の結団式と第1回学習会が7月27日、ミキモト真珠島真珠博物館ミュージアムホールで行われました。

午前中は、結団式の前の顔合わせを兼ねて、御木本幸吉ゆかりの地や史跡などを巡る市内調査を行いました。

豊田祥三文化財専門員の案内で、大里にある幸吉生誕の地や幸吉が幼少のころ狂言の称号をもらったという賀多神社、九鬼家の菩提寺である常安寺、江戸川乱歩のみなとまち文学館、鳥羽歴史ガイドセンターなどを回りました。

団員たちからは、「賀多神社の能面はいくらぐらいするのですか」、「九鬼嘉隆の末えいは、現在どうしているのですか」といった質問も積極的に出るなど、幸吉や鳥羽を知るための貴重な時間になりました。

た。

午後からの結団式では、昨年度に引き続き明智小五郎役の大木信幸さんから任命書が9人の団員たちに授与されました。

学習会は地球塾と合同で行われ、真珠博物館松月清郎館長から、幸吉が生まれた安政5年当時の江戸時代の鳥羽の様子や、寺子屋で受ける一般的な教えなどをお話していただきました。

南山大学の目崎茂和教授からは、幸吉の青年時代のエピソードや地理学の視点から海図についてなど、幅広いお話をしていたいただきました。

学習会のあと、御木本幸吉記念館を見学しました。記念館は、うどん屋「阿波幸」の再現や妻うめのことなど、幸吉の生涯と業績がテーマ別に構成されており、午前中の調査や学習会で学んだことをより深めることができました。

団員たちは、真珠養殖と関係の深い海に関心を寄せたり、幸吉の数々のコレクションから幸吉の側面を垣間見たりと、いろいろなことに興味や関心を持って取り組みました。団員同士も、学習会が進むに連れて、打ち解けた雰囲気になり、第1回学習会を終えました。

鳥羽少年探偵団の今後のスケジュール

第3回学習会 9月13日(土)

●真珠の仕組みや養殖についての調査(市内、志摩市)

第4回学習会 10月18日(土)

●御木本幸吉生誕150周年事業の一つ、ベンチャー塾に参加(市内)

(日) 県外調査 11月15日(土)〜16日

●幸吉が影響を受けた二宮尊徳、渋沢栄一を調査(神奈川県、東京都)